

2008年度

# 人権作品集



(「人権」に関するポスター(図画)応募作品 小学生の部 1年生)



(「人権」に関するポスター(図画)応募作品 中学生の部 2年生)

## はじめに

名張市・名張市教育委員会では、日常の家庭生活、学校生活、社会生活などの中からの体験を通して、人権を守ることの重要性や、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすための意見を市民のみなさんから募集しています。

本年度も、小・中学校の児童生徒をはじめ、高校生のみなさんから、「人権」に関する作文・標語・ポスター（図画）・フォト（写真）を合わせて四二七点もの応募をいただきました。

全体を通して見てみると、自分たちの身近な問題や、さまざまな体験を通して、人権の大切さをとらえ、自分たちの生活の中で差別をなくしていく行動に移していこうとする気持ちが現れています。日ごろの学校、地域等での人権・同和教育の取り組みの成果だと喜んでいきます。

この作品集には、応募いただいた作品の中から、作文一〇点、標語一五点、フォト（写真）七点を掲載しました。

作文・標語は、様々な学習や日ごろの自分自身の体験を通して、差別の現実に触れ、その中から差別をなくすために、自分の問題として自分がどう行動すべきかなどが率直に表現されているものが多く見られました。

なお、ポスター（図画）については、二作品を啓発用のポスターとして活用します。

この作品集を通して、人権について考えていただいたり、差別に対する見方や考え方などを知っていたくとも、さまざまな学習の場でご活用いただき、人権意識の高揚と人権・同和教育の一日も早い解決に向けて、一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、作文・標語・ポスター（図画）・フォト（写真）にご協力をいただきました皆様方に対し、厚くお礼申し上げます。

目次

小学生の部

● ともだち	(一年生)	4
● ゆう気を出して	(二年生)	6
● 「わを広げよう」	(三年生)	8
● つながりの大切さ	(四年生)	10
● ケンカをして一つになった	(五年生)	12
● 差別はまちがったものさし	(六年生)	14
● 出合いを通して	(六年生)	16
● 人が人らしく生きる権利	(六年生)	18

中学生の部

● 「いじめ」はなくせる	(一年生)	20
● あの時の私と、今の私	(二年生)	23

# 標語

小学生の部 ..... 26

中学生の部 ..... 26

# フォト・写真

●おなかすいたよー ..... 27

●語らい ..... 27

●学校帰り ..... 28

●並んで田植え ..... 28

●父と娘 ..... 29

●かわいい ..... 29

●休日 ..... 30

今年度人権作品応募状況 ..... 31

## ともだち

(小学一年生)

四がつに一ねんせいになりました。おなじようちえんのおともだちはいなくなりましたが、あたらしいおともだちがいっぱいできました。まいにち、いろんなことをしてあそびました。とてもたのしかったです。

五がつになって、AちゃんとBちゃんとなかよくなりました。Aちゃんとはいえもちかくで、ぶんだんもいっしょなので、まいにちいっしょにがっこうへきています。

二十五ぶんきゆうけいするとき、AちゃんとBちゃんとどうしようじょうであそぶやくそくをしました。Aちゃんは、

「かいてんきゆうであそぼ。」

といいました。Bちゃんは、

「ぶらんこがいいから、ぶらんこであそぼうよ。」  
といいました。わたしは、みんなでいっしょにあ

そぶのがたのしかったから、

「どっちでもいいよ。」

といいました。でも、二人はなかなかゆずってくれませんでした。それで、とうとうけんかになってしまいました。

でも、わたしがかいてんきゆうにいったらBちゃんがかわいそうだし、ぶらんこにいったらAちゃんがかわいそうだし、とてもこまりました。わたしは、どうやったらいっしょになかよくあそべるかなあとおもいました。

わたしが、

「はんぶんずつしてあそぼ。」

といったらAちゃんもBちゃんも、

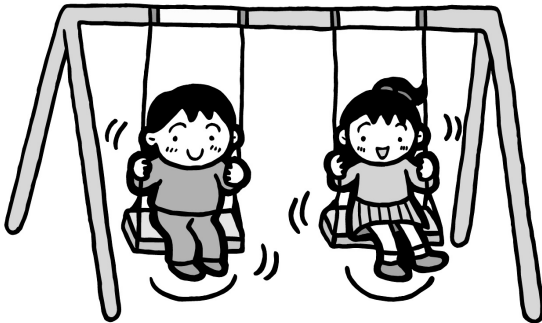
「いいよ」

といいました。

みんななかなおりして、なかよくたのしくあそべました。ほんとうにたのしかったです。

きょうしつにもどってもうれしくて、なんだかわくわくしました。

それからもずっとなかよしで、かけっこをしたり、タイヤとびをしたり、トトロのもりをたんけんにいったりして、いっぱいあそんでいます。けんかもときどきします。きつくいたり、いわれてないてしまうこともあります。でも、三人ともすぐに「ごめん。」といってまたあそびます。まいにちいっしょにあそんでいて、たのしいです。



## ゆう気を出して

(小学二年生)

夏休みにみんなで、のぼりぼうの、一ばん上までのぼって、下へ下りるあそびをしました。

そのときに、友だちの一人だけが、こわくて下りられませんでした。わたしとみんなは、大声で、「下りられへんの。」

と、すこしいやなかんじで言っていました。

あとで考えると、わたしも、五月まではできなかったことでした。もしじ分が、同じことを言われたら、とてもいやな気もちになりました。でもわたしは、そのあと、あやまることができませんでした。

そして、九月に、同じ公園で同じ友だちとまたあそびました。でも、その友だちはきませんでした。わたしは、その子が、前にわたしたちが言ったことが気になって、きたくなかったんじゃないかなと思いました。

そうしたら、友だちの一人が、その子のいえまできそいに行つて前のことをあやまろうと言いました。わたしもそうしなきやと思いました。

それから、その子のいえに行つて「下りられへんのつて言つてごめん。」と、あやまりました。

でも、まだその子がいやな気もちになっているんじゃないかと思つて、

おもいきつて聞いてみました。そうしたら、その友だちは、

「気になつてないよ。前にあやまつてくれたから。」と言つてくれたのでよかったです。でも、今でも気になつています。

いっしょにのぼりぼうのれんしゅうをがんばろうと思ひました。

同じようなことが、体いくの時間になりました。とびばこのれんしゅうをしているときに、しつぱいした友だちがいました。しつぱいしたとたん、みんながどつとわらつたのです。そのときに、そ

の子は、前にのぼりぼうでみんなにわらわれた子とよく似た顔をしていました。とてもかなしそうにしていました。

わたしは、そのときわらえませんでした。のぼりぼうのことを思い出したら、ピクツとしてわらえませんでした。

そのときに、  
「どうしてみんなわらうの。」

と、先生が言いました。みんなシーンとなりました。

わたしは、みんなあかんと思ってるのかなど、思いました。わたしは、わらわんときって言いたかったけど、なんて言っているのかわかりませんでした。わたしが言えたら、友だちはかなしくならなかったかもしれないと思います。こんどからは、ゆう気を出して言っていこうと思います。





## 「わを広げよう」

(小学三年生)

わたしには、たくさんのお友だちがいます。それは、同じクラスや学年だけではなく、年のちがうお友だちもできました。

わたしは、一学期のころの休み時間に、ころんでないでいる一年生の子を見かけました。その子とは話をしたこともなかったのですが、話しかけようかどうかまよいました。でもそこで、ゆう気を出して、

「大じょうぶ。ほけん室に行く。」

と声をかけました。声をかける前は、自分もドキドキしていましたが、でも、少しゆう気を出して話しかけられて気持ちよくなりました。もし自分がかろうなのなら、

「ありがとう。」

と言ったと思うけど、その時の気持ちは、その子にありがとうと言われなくても、気持ちが伝わっ

ていけばいいなと思っていたので、声をかけられたのだと思います。

でも、その一年生の子は、わたしに、

「ありがとう。お友だちになって。」

と言ってくれたので、とてもうれしい気持ちになりました。その時、クラスや年がちがっても、その人のことをおもう気持ちと少しの話しかける時のゆう気があれば、お友だちって作れるし、大切にしたいなと思いました。

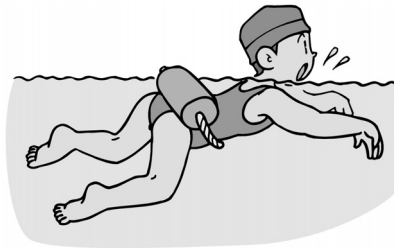
わたしは、お友だちがいることで楽しい気分になったり、安心できたりします。遊ぶ時でも一人だとつまらないことでも、お友だちがいっしょならおもしろいし、一人では心細かったりゆう気や元気がでない時でも、お友だちがいっしょだと心強いし、たよりにもなります。

わたしが教えてもらったことに、てつぼうがあります。さいしょは、むずかしくてできなかったけど、いっしょにれん習していたお友だちが、回り方の見本を見せてくれたり、上手に回れるこつを

教えてくれたりしたので、だんだんできるようになって、今はさか上がりもできるようになりました。

でも、学校のプール水えいの時間は、わたしが先生をする番です。友だちは、てつぼうがとくいだけど、水えいは少しにが手です。わたしはてつぼうがにが手だけど、水えいはとくいです。だからわたしも、てつぼうの時みたいに友だちに教えてあげます。友だちがたくさんいると、いっぱい色んなときに教え合いや助け合いができるから、友だちはたくさんいた方が毎日楽しいと思います。だから、わたしは一人でもたくさん友だちができるように、だれにでも親切にして、いつも笑顔ですごすようにしようと思います。

これからも今の友だちとなかよくして、新しい友だちをたくさんつくって友だちの「わ」を広げていきたいです。だから、友だちを大切にせずとなくよくしたいです。



## つながりの大切さ

(小学四年生)

わたしには、とても仲良しの親友がいます。その子は、いっしょにいて楽しくて、やさしくて、わたしがこまっつていと、いつも助けてくれます。二年生の時、わたしは、左足にひびが入ってギブスをしなければならなくなりました。

いたい足をひきずりながら、次の日学校に行ったら、たくさんの友達が「どうしたん?。」と聞いてくる中、その親友は何も言わずに、ぱっぱつとわたしのランドセルやカバンを持ちロッカーにしまってくれて、じゅ業の用意までしてくれました。その時、わたしはすごうれしかったです。だって荷物は重たいし、足もいたかったから、なぜ足にひびがはいったのかわけを言うより荷物を持っほしかったからです。

次の日からみんなは、わたしが歩けないから、先生のいすをかりて、そのいすにのせてくれて、

どこにでもおして行ってくれました。先生も、わたしが「トイレに行きたい。」と言ったらすぐに一階の車イス用のトイレまでつれていってくれました。

なん日かたったある日の朝、教室に入る時や帰る時に、ぎこちないけれどだんだん歩けるようになってきました。その時は、本当にうれしくて歩き回っていると友達が「大じょうぶ?。」と聞いてくれて、心配してくれたことがとてもうれしかったです。この時わたしは、歩けるようになったのは、病院の先生・わたしをささえてくれていた家族・わたしをかついで、階段ののぼりおりをしてくれた先生・コマ付きのイスをどこにでもおして行ってくれた友達・そして何より、一番最初に手をかしてくれた親友のおかげだと思えました。

今でも走ったり、元気に遊んだりできるのは、みんなのおかげだと思い、かんしゃしています。

足にひびが入った時は、すごくいたくて悲しかったです。その事がみんなともっと仲良くなれる、

そしてつながれる、あるいはみわたしにとつては、「幸ふく」だったのかなと思います。

これからも、おしゃべりしたり、遊んだり、係をいっしょにすることで、友達とのつながりを深めていきたいと思います。

そして、このつながりを大切にして、自分が助けてもらった時のように、友達がけがをしたり、泣いたりしている時は、「大じょうぶ？」とか、「どうしたの？」と親友はもちろん、まわりの人に手をさしのべて、人のことを大切にできる人になれるように、がんばりたいと思います。



## ケンカをして一つになった

(小学五年生)

一学期、ドッチボールをしていてA君とちよつとしたことで、ケンカになってしまいました。業間が終わっても、ぼくとA君はそのことでもかなりムカムカしていました。

その日の三限目、ぼくとA君も入れて、みんなで話し合いをしました。その時ぼくは、自分のくやしかった思いを伝えました。A君も自分の気持ちを伝えてくれました。周りのみんなもアドバイスをくれました。気持ちが変わりました。その話し合いで、ぼくはA君にあやまって、A君はぼくにあやまってくれました。そして仲直りをしてなんだかスッキリしました。

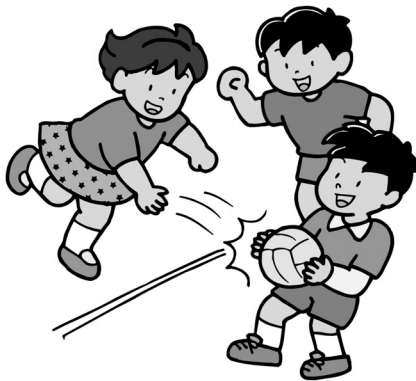
業間のあとと三限目が終わった時では、ぼくとA君は、あきらかに気分が変わりました。ぼくはその時、「なぜあんなことでケンカになってしまったのだろう。なぜ手が出てしまったのだろう。」

と、まるで自分が新しい自分に出会えたようで、とつてもうれしい気分になりました。新しい自分と前の自分をくらべてみると、新しい自分の方が何百倍も良かったことに気が付きました。なぜかという、良い心「あやまれる心」が新しい自分にはあったからです。ケンカをすれば、いやな思いはするけれど、相手やみんなと話し合ったり、あやまり合ったりして、より仲良くなれると思います。何かでもめた時、みんなが話し合つて新しい自分を発見することができれば、一つになれるチャンスだと思いました。そしてその時は、前よりも自分やA君、クラスのみんなも確実にパワーアップするのだということです。

A君とケンカをして、仲直りをしてから、前よりもA君と遊ぶことが多くなりました。また、話すことで、とても仲良くなれた友達も増えました。ぼくは一年生から、五年生になるまでケンカをしてきました。そのたびにイライラ、ムカムカする気持ちになりました。でも、友達と仲直りしてパ

ワーアップできたとき、自分が変わったときは気持ちが良いということを学びました。それだけではなくて、ケンカ相手のA君が変わったこともうれしかったと思います。

新しい自分、そして新しいA君、ぼくとA君がワーアップして変わるとき、その周りの友達もとつてもうれしいと思います。それは、A君とぼくがあやまって二人とも笑顔になった時、周りのみんなも笑顔になっていました。その後、A君と遊ぼうと思った時、たくさんの友達が声をかけてくれました。「みんなで遊ぼう。」とか「いったいどうなるかと思った、Aくんと仲直りしてホッとした。」という言葉をうれしそうに伝えてくれました。よく考えてみるとA君とぼくが「ごめん。」と言えたのは、話し合いの時にたくさんの友達が伝えてくれたことがきっかけでした。友達のおかげで自分やA君も成長できていたのです。今度は音楽会という大きな山を、みんなと心を一つにして登り、絆を深めたいです。



## 差別はまちがったものさし

(小学六年生)

私は、差別は絶対やってはいけないと思います。私のクラスでは、一年の時から六年まで、人権についていろいろ学習してきました。そして、みんな、一生懸命考えてきました。でも、ある日、こんなことがありました。

ある日の休み時間、私は外へ出て遊んでいました。すると、ドッジボールをしている一部の子たちが何かもめているのが目に入りました。その時は、けんかでもしているのかと思いました。通り過ぎようとした時、

「Aなんか弱いから入ったらあかん。負けるもん。」

「そうや、そうや。Aなんかドッジに入らんでも、どっかさこらへんで遊んどいたらいいやんか。」

え……。これって仲間外し?と思いました。その子は泣きそうになっていました。

その時、一緒に遊んでいたNちゃんが来て、

「なんでそんなひどいこと言うん? 負けるとか負けへんとか、そんな問題ちゃうやん。」  
といいました。そして、

「みんな楽しく遊べばいいやん。なんであかんのか?」とNちゃんが言いました。そのおかげで、その場はおさまりました。でも、私は、その時何も言えなかった自分ですごくいやになりました。

そして、ふっと思い出したことがありました。実は私にも、そのようなことがあったのです。助けてほしくても、みんな知らんぷりして遠ざかっていきました。

でも、その私が今、遠ざかっていこうとしていました。それは、かわりたくなかったから見て見ぬふりをしそうになっていたからです。ほかの人たちも、そう思っていたんだと思います。そう考えると、Nちゃんはすごい人だと思いました。ちゃんと面と向かって注意して、仲間外しという差別に立ち向かったからです。

社会見学で聴いた、清原隆宣さんのお話で「差

別はまちがったものさし」と教えてもらいました。あの仲間外しは、ドッジができないからと、人のねうちをそのものさしではかっていたんだと思います。Nちゃんは、それに対して、

「ドッジはみんなでやるから楽しい」という、あたたかいものさしの持ち主です。定規とはちがいが、人が作り出すものさしは時には差別につながっていきます。

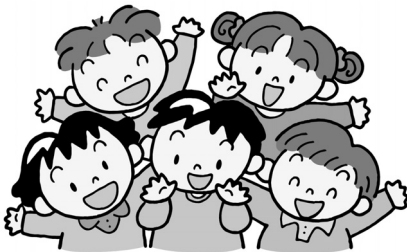
私がそんな差別から逃げていたのは、私もまちがったものさしを持っていたんだと、今でも少し後悔しています。

「差別は人の命をうばう。死に追いやってしまう。」差別は、言うだけで人の心を傷つけ、時には死につながることもあると、清原さんは教えてくださいました。私はその言葉がすごく心に残っています。たった一つしかない、かけがえない命を、差別で簡単にうばいとられてしまうなんて、絶対に許せない。

世の中には、人権問題などの差別が多くあると

思います。でも、まずは身近にいる人に対して行動していかなければならないと思います。私は、仲間外しや差別を見かけたら、これからは積極的に注意をして、まちがったものさしを正していきたいと思います。

Nちゃんみたいに、人はあたたかいと、そう思えるように……。





## 出会いを通して

(小学六年生)

わたしは、一人の人と出会いました。

それは、父が、入院していたころの話です。同じ病院に一人の男の人がいました。その人は、ある事故で、こしから下が動かなくなり、両方の足がなくなりました。そして、今はギブスをしています。その男の人は、とても、やさしい人で、いつも、ここにこしていました。

ある日、その人は私のお母さんに、何か相談していました。その人はうつむいて、とても悲しうでした。病院から帰る途中に、お母さんが、口をひらいて言いました。

「あの男の人には、六年生の子どもと四年生の子どもがいるの。」

それは、私と妹と全く同じ年でした。

「でね、その子たちは、お父さんに会いにこないそうで、お父さんのことみんなに、見せるのが、

はずかしいとおもっているんだって。」

お母さんは、私に、こう言った後、続けて

「あなたは、お父さんといっしょにいて、はずかしくないよね。」

と言いました。私は、それを聞いて、言葉がつまりました。それは、私の心のどこかで、はずかしい気持ちがあつたからです。お父さんと、いっしょに出かける時、人の目がどうしても気になったのです。この気持ちを言えずに、お母さんには、「うん、そんなこと、思ったことない。」と、言ってしまった。

そして、次の週に、また会いにいくと、その男の人のおくさんが来ていました。すると

「あなたがいるせいで、まわりにも、わらわれているのよ。あなたなんかいなければ。」

とすぐ大きな声で、そのおくさんはさけんでいました。私は

「それはちがう。この男の人は、この家族のために、早く元気になろうとしているのに。」

とすごくすごく腹が立ちました。このおくさんは、男の人の気持ちがあつていないと思いました。でも、その時、ふと自分もお父さんのことをはすかしいと思っていたことを思い出しそんな自分にも腹が立ちました。

そして、その男の人は、退院していきました。しかし、退院してすぐに、メールが、お母さんに届きました。そこには、

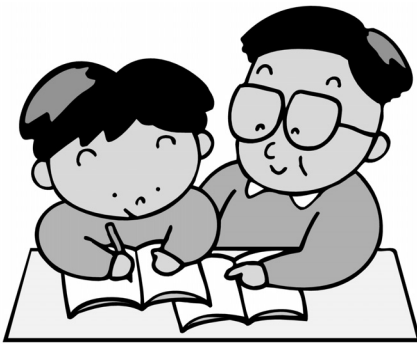
「帰ってきて、すぐに、六年生の長女が、部屋にこもって、すごく泣いているんです。そして、家の中には、暗く、言葉もかわしません。もう一度、病院にかえりたいです。」

という内容でした。お母さんは、そのメールを見て、

「男の人を一人の人間としてあつかっているとは思えない。」

と悲しそうに言っていました。私のお父さんは今、車いすで生活しています。確かに車いすは不都合もあるけど、お父さんは、一生けん命がんばっ

ています。そしてみんなが助け合っています。私は障害があるからといって、その人のことをよく知ろうともせず、かっつてに決めつけるのは、許せません。私は胸をはって「大好きなお父さんです。」とみんなに言います。



## 人が人らしく生きる権利

(小学六年生)

私は、人として、人らしく生きる権利があるのに、人らしく生きていけない人がいる事は、おかしいと思います。差別やいじめは、人らしく生きていけないだけじゃなくて、命をうばってしまう事もあります。それなのになぜ犯罪にならないの？と私は思います。私は、差別の中で一番、部落差別が許せません。もちろん、他の差別も許せませんが、部落差別は、もつと許せません。なぜかと言うと、産まれたところや育ったところで、人のねうちを決めるなんて、おかしいと思うからです。五年生から児童館で人権の勉強を始めました。(小学生友の会といいます)そこで勉強するまでは人権という意味は、分かりませんでした。勉強しているうちに「人権とは人らしく生きる」という意味だということが分かりました。この世の中に差別は、いっぱいあります。私は、差別がいつ

ばいあるということは、差別されて、人らしく生きることができていない人も、たくさんいると思います。だから、少しでも、差別がなくなつて、人が、人らしく生きていけるような世の中になつてほしいと思います。そのために私は、どんなことが出来るか、「清原隆宣さん」から、お話を聴いて、私なりに考えることが出来ました。まず一つ目は、「差別からにげない。差別を見つけたら、絶対やめさせる」

この言葉を聴いて、私は、今まで、だれかがきつく言われているのを聞いても、言ってる子を注意することができませんでした。差別からにげないことだとわかりました。これからは、少しずつでも、やめさせる勇気を出そうと思いました。二つ目は「それぞれ個性がある。それを認め合う」私は、時々、人と人を比べて、「あの子の○○なところがキライ。」と思つてしまうことがありません。でも、そう思いながらも、平気な顔をして、話をしたりしていましたが、本心は「きらいやな」と思っていました。でも、隆宣さんから、この言

葉を聴いて、これからは、「一人ひとりの個性を認めていこう。」と自分の心の中で決めました。

隆宣さんの話を聴いて、いっぱい学んだことがありました。いっぱい考えたこともあったし、自分のやってきたことが、おかしいと思うこともありました。

自分の命も、人の命も大切にする。この言葉、命を大切にすつて、あたり前の事だけど、すてきな言葉だなあと思いました。

差別は、昔の話じゃなくて、今の話。差別は、今も残っています。差別つて、いつになったらなくなるのかなあ……。一人ひとりが、差別をなくそうと、行動していけば、少しずつでも、なくなっていくと思います。私も、小友の仲間と一緒に勉強を続けていきたいと思っています。

自分がされてイヤな事、言われてイヤな事は、人がされても、イヤな事だから、イヤな事は人にしない。これから、人の気持ちを考えて、一人ひとりの個性を認め合う事から、始めていきます。だつて、人間は、人間らしく生きる権利を、だれ

でも持っているのだから。



## 「いじめ」はなくせる

(中学一年生)

私が「人権」という言葉を聞いて、すぐに思い出すことは自分が小学校六年生のときの出来事です。

私のクラスでは、ある子がみんなからさけられていました。さけたり、いやがったりしていた人たちの中に私も入っていました。何かさけたり、直接いやな事を言われたという事もなかったけど、「この子は嫌い」と決めつけていた人も少なくなく、かっかと思えます。私もその子が私の事を嫌いと言っていたというのを聞いてしまい、余計むかつくなどと思っていました。さけられていても、その子はいつでもまわりの人に明るくふるまっていました。私はそれが不思議でした。どうしてそんなに強くいられるのか？と。私が本当の事を知ったのは、私と仲がいい友達とその子が遊んだ時に言った言葉を聞いたからです。私の友達も、

いつもその子が笑顔でいられる事を疑問に思っていました。なので、本人に聞いてみるとその子は、「いつでも笑顔でないと自分がくずれそうになるから…」と言ったのです。そんな言葉を聞いて、私は今までのことを後悔する気持ちでいっぱいになりました。そんな事があって私は自分しているまちがいに気づき、気持ちに変化があらわれたのです。その子自身が私のまちがいを気づかせてくれたように感じます。

みんな一人一人が「こんな事してはいけない」と気づいていても、それを行動に移すことができない日が続いていました。そんな時、話し合うきっかけをつくってくれたのが先生でした。先生はあたる日の金曜日の五・六時間目に、これまでの生活の中の「いじめ」について話し合う時間をつくってくれました。最初は仲のいい友達どうしでいろんな意見を出し合ってよい、との事でした。その分、思っている事が言いやすくて私のグループでは、もう意見がかたまっていました。ここで話し

合ったことで分かった事がいくつもありました。みんな、必ず一度はいじめる立場にも、いじめられる立場にもなった事があるという事です。「いじめ」というのは、すぐく小さなことから始まってしまふし、誰でも簡単に加害者、被害者になつてしまふものです。いじめられて悲しかった気持ち、人をいじめて後悔した気持ち、両方を体験したことのある私たちだからこそ、今回の話し合いでいじめを止めたいと思う気持ちがより一層大きかったのかもしれない。

そんな話をしている時に、一人の子が「本当の事を相談できる友達がここにいてうれしい」と泣きながら言ってくれました。

その言葉が胸に広がっていききました。この時に私は「いじめを止められるのは今しかない」、「絶対にこの時間を無駄にせず、いじめを止めよう」と強く思いました。私は、その時話し合った友達の事みんなを見直しました。こんな友達が多くにいて良かったなあ……とすごく感じま

した。誰でも絶対に「いじめ」という問題にぶつかった事があるはず。私も、もちろんありました。だからこの時間でみんな、自分の心と向き合つてほしい、悲しい・苦しい思いをしている子がいなくなつてほしい、そう思つたのです。グループごとで話し合った内容をみんなに一人ずつ伝えていきました。

こんなに心が動く話し合いは今までありませんでした。

やっぱり、みんなも気づいていました。こんな事は絶対に正しくないと。そう思っていたのにいじめの加害者になつていた、そんな自分を見つめなおしてたくさんの人が涙を流していました。気づいたら、みんなが泣いていて私はその時思いました。「このクラスは心を一つにできる……：そん

なすごいクラスなんだ」  
この日にみんなが流した涙、この気持ちをたぶん、一生忘れる事はないと思います。あの時確かに何か大切なものを得る事ができました。この話

し合いで学んだ事もたくさんあります。自分が変わればまわりの人も変わることができる。自分の気持ちを相手に伝える事の大切さ、そんな事を学んだ話し合いでもありました。あの時みんなが変われた事、自分の気持ちをまわりの人に伝えられた事……なによりも、どんな事があっても「いじめ」はなくすことができる。その事をみんなは教えてくれました。

もう二度と同じ過ちをおこさぬように、また、悲しい思いをしている子がなくなるように良い人間関係を築いていきたいです。



## あの時の私と、今の私

(中学二年生)

私が「いじめ」というものを体験したのは中学一年生の時である。それまでは、自分がいじめられるとは思ってもしなかった。引き金となったのはとても些細な事だったのだ。その時の私はひどく傷付いた。そして、ひどく愚かであった。自分のクラスでは、数少ない友人と悪口を言ったり、相手の傷付くような事をしたり、仕返しを繰り返していた。向こうが攻撃をしてくれば仕返して、後から込み上げてくるものは壮絶なまでの虚しさや悲しみだけであった。つまるところその時の私は「いかに相手を傷付けるか。」と言うことで頭がいっぱいだったのだ。実際、そう思うに至るまで、色々な事があった。私の友達に私の悪口を言いふらして、同盟を組もうと言ったり、朝、教室に入った途端見て来たり、私の前で悪口を言ったり。今思い出しても苦しい。辛い。

「私なんか、本当は誰にも必要とされていないんじゃないか。」

と思ってしまう。数少ない友人にも、

「この人は、本当は私の事を嫌っているかもしれない。」

と疑ってしまう。そう思うと、今まで普通に話していた人ともうまく話せなくて、目をそらしてしまっていた。愛想笑いを使ってしまうと、嫌われないように嫌われないようにと、話を合わずだけで口数が減っていった。

「本当の私は、何処に居るんだろう。」

そんな考えが日々頭の中に浮かんで消えて、毎日が特に楽しいと感じることもなく過ぎて行った。朝学校に行って戦って、夜は部屋で涙を流すのが日課になってしまっていた。とにかく苦しかった。

「どうしてこうなったのか。自分が悪いんだろうか。強くなりたくない。」

と考える時間が日に日に多くなって行く。あの時



こうしていれば、もつと違う今があつたかもしれない、と後悔を繰り返しては自分の小ささに気付かされる。話し合つても一向に解決には進まない。私の胸にもやもやとした黒いどろどろが生まれて来る。最初は小さかつたそれが、だんだんと大きくなつて、

「直に私の全てを奪つていつてしまうのではないか。」

と思うようになった頃、私を救つてくれる人が現れた。数名の友人と一人の先生である。友人はずつと前からの親友で、私がいじめられていると知っているながら軽蔑する訳でもなく前と同じように接してくれた。私に、

「ずっと親友だから。」

と言つてくれた。その時はどうしようもなく嬉しくて涙が出た。

「この人達がいてくれれば、きっと私は生きていく。」

と感じた。先生は、国語の担当で、「怖い先生」

として有名だったが、心優しい人であつた。先生は私の話を聴いてくれて、これからの事を話す時私の意見を尊重して下さつた。友人達は、私の言いにくい事を代弁してくれた。私は、

「何でこんなに人の為に一生懸命になれるのだろう。」と思つた。それから、人の「温かさ」を感じ取るのであつた。

そして先生と考えた結論は、

「もし自分がいじめられて苦しくなつた時は、相手を憎む事より、許す事を第一に考えなさい。」

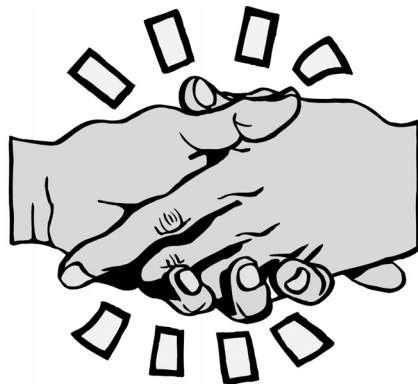
と言う事である。結局のところ、考え過ぎて損なのは自分である。恨みつらみを重ねるよりも、いつそ相手を許した方が心が晴れる。私はその事を聴いた時、胸を打たれた。そして今までもやのかかつていた私の心が、洗われていくのを感じた。その日を境に、私の道が光で照らされていくようだった。私の悪口を聞く事も少なくなつた。毎日が充実していた。心から笑えるようになった。

「人はここまで変わるものなのか。」

と感じた。現に今、私の周りにたくさんの方が居る。本当に、先生にはどんなにお礼を言っても言いたらない。

私が「いじめ」を体験して言えることは、私自身、人を差別の目で見る事が減った。そして、悪口を言う人を止める事が出来た。これは自分の大切な進歩だと思う。絶対に、前の私には出来ないもう一つ、人の心の動きに敏感になれた。一人でも楽しくないと感じる人を減らしたいと考えるようになった。前の様に皆と同調するだけでは同じ事の繰り返しである。

「前の私の様に、もやもやとしている人を無くしたい。」と強く願うようになった。そしてこれからもその想いを持ち続けたいと思う。そう考え、行動する事が先生に教えて頂いた事だと思う。あの苦しくて辛い思いを無駄にしたくない。そうして私は今日も先生の言葉を胸に生きて行くのだから。



## 標語

### 小学生の部

だれ一人 なくしちゃいけない その笑顔

(五年生)

みんなある いじめをなくす その勇氣

(五年生)

一人でも味方がいれば 大きな勇氣

(五年生)

気付いたら 自分もしていた 見ないふり

(五年生)

広げよう 勇氣の言葉 その笑顔

(五年生)

「無関心」それが差別のはじまりです

(六年生)

自分から 差別をなくす 第一歩

(六年生)

見て見ぬふり これも一つの いじめです

(六年生)

「やめようよ」その一言が いじめをなくす第一歩

(六年生)

伝えよう自分の気持ち 考えよう相手の心

(六年生)

### 中学生の部

つないだ手 伝わる心 あたたかい

(一年生)

考えよう 言葉の重み 相手の痛み

(二年生)

人権を守って輝くみんなの笑顔

(三年生)

伝えあい 認めあい つながる心

(三年生)

ありがとう 短いひとこと たいせつに

(三年生)



タイトル：おなかすいた  
よー！

コメント：人と鳥たちとのほのほのとしたふれあい、やさしさにおもわずカメラを向  
けました。



タイトル：語らい

コメント：年末の忙しき朝市にて少し話しに花を咲かせておられる  
お二人に、ほのほのとした語らいを感じました。



タイトル：学校帰り

コメント：友達と今日あった事など楽しく語らいながら帰る  
様子がほのほのと感じられた。



タイトル：並んで田植え

コメント：5月13日の朝、待ち遠しい田植えの初体験、一  
斉に並んで、4本のなえをうえていく、おつかし  
いものだ。



タイトル：父と娘

コメント：近年、親子間の殺伐とした報道が多い中で、無邪気な父と娘のふれあいに接し、暖かくほのぼのとした姿にレンズを向けた。



タイトル：かわいい

コメント：子供さんもネコもかわいかったです。



タイトル：休日

コメント：休日のひととき、親子(娘と孫)は、何を語っているのでしょうか。笑い声が聞こえてくるようです。

# 人権作品応募募状況

## 作文

小学校……………六五  
中学校……………一五

## 図画・ポスター

小学校……………一〇二  
中学校……………四六  
高等学校……………五七

## 標語

小学校……………九二  
中学校……………四三

## フォト・写真

一般……………七

作品総数……………四二七





—人権作品集—

2009年2月発行

名 張 市  
名張市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。